

阪神タイガース岡田監督の奥様は元ビクター社員

横浜南支部 岩崎 陽三

流行語大賞の発案は奥様であった

令和5年の流行語大賞は、「アレ (A.R.E.)」に決まりました。この言葉は、岡田監督が、プロ野球日本一の優勝を目指す隠語として用いた言葉です。受賞した岡田監督は記者に“この言葉は、実は嫁^{よめ}さん (奥様) が言い出したもので、すごいなアと思います”と話されました。本来ならば、流行語大賞は奥様に差し上げるべきと考えられます。



そこで、岡田監督の奥様についてお話したいと思います。奥様は元ビクター社員であったことは知るところであります。岡田監督が率いる阪神タイガースが令和5年、プロ野球日本一となった活躍の裏には奥様の内助の功があったとも言われております。

結婚式に上司の企画室長等が招かれた

奥様の旧姓は大関 (オゼキ) 陽子様です。生まれは1959年の64歳で、兵庫県芦屋市の生まれ、お父様は商社の丸紅に努めていました。青山学院在学中に、父親の転勤でカナダ・モントリオールの中高、短大に在学しました。

1978年父親の帰国で、帰国女子となり、上智大学外国語学部に入りました。この時、フランス語、英語、スペイン語が堪能でした。

1981年日本ビクターに入社しました。所属は企画室でありました。得意な外国語の翻訳などをしておりました。

1982年阪神タイガース岡田選手と婚約しました。切っ掛けは、父親が熱烈な阪神タイガースファンで「阪神クラブの後援会」に入っており、新年会で父親に同行して、「みなみ」へ一緒に飲みに行った際、当時の阪神タイガース球団社長の小津正次郎の紹介で、岡田選手と会うことになりました。岡田選手とはオフ期間にデートを4~5回くらいで3月に婚約し、シーズン明けのその年の12月11日に大阪で結婚式をあげました。その席に奥様の勤め先の日本ビクター会社代表として企画室長坂尾忠寛さんと部長の白沢哲夫さんが招かれました。当時、岡田選手24歳、陽子さん23歳でした。

結婚後、岡田夫妻はご挨拶に日本ビクター本社にこられ、松野会長等と面談された

式後、岡田選手と陽子さんが日本橋ビクター本社にご挨拶に来られました。対応したのは、松野会長、垣木専務 (企画室担当) との坂尾さん白沢さんでした。

奥様陽子さんは岡田監督の内助の功は絶大であり、以前、監督時代に、当時の強打者バース選手の通訳もしていました。また、留守勝ちな夫を支えながら、子供も立派に育て上げられ、息子さんは関西の某国立大学を卒業して、某商社マンとのことです。岡田監督は、家ではほとんど野球の話はしないとのことです。食事はほっこりしたものが好きで、好物の枝豆を中心に、食欲に応じて小口にして好物の数種の品を揃えているとのことです。

以上、岡田監督の奥様の紹介でした。

(なお、上記記事は当時上司であり、結婚式に招かれた企画室長坂尾忠寛氏から加筆・添削をいただきました)